

課題項目		
(1)	市の事業	…2
(2)	市民等への啓発	…3
(3)	医療・介護の現場	…4
(4)	障害児・者、難病患者等への取組	…5
(5)	他職種・他事業所との連携	…5
(6)	人材不足	…5
(7)	地域リハビリテーションの推進	…6

課題項目	①船橋市における地域リハビリテーションの課題	②今後船橋市において必要な取り組み	③各団体が協力できること
(1) 市の事業	<p>◆ふなばしシルバーリハビリ体操事業（健康づくり課）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍による事業中止が続いたことから体操指導士が活動から疎遠となってしまう、地区によって体操指導士が不足している。新たな体操指導士を育成する養成講習会が、令和2年度以降は1度しか開催できておらず、新規の体操指導士の育成も進んでいない。</li> </ul>	<p>◆ふなばしシルバーリハビリ体操事業（健康づくり課）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体操指導士募集についてのPR方法、内容の見直し</li> <li>・体操指導士養成カリキュラムの見直し</li> <li>・国などのコロナ対策の動向を踏まえ、現在縮小実施中の体操教室や中止している養成講習会を、コロナ前の状態に戻すことができるか検討</li> </ul> <p>◆介護予防事業全般（健康づくり課）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防教室や通いの場など市民へ紹介できるサービスについて、庁内の情報共有、連携を強化することで相互に活用できる仕組みが作られるのではないかと考える。</li> </ul>	<p>(千葉県理学療法士会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●総合事業における、地域ケア会議等への参加やサービスCなどの事業への協力。</li> <li>●介護予防活動を行う事の出来る東葛南部ブロック所属の会員の情報を市に提供し、地域の介護予防等の事業に協力しやすい環境を作る。協力（派遣）できる地域の事業の例 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の住民主体性の通いの場への介護予防に関する講座の開催</li> <li>・地域ケア会議への参加</li> <li>・ケアマネジメントにおいて、自立支援のスキルを用いたプランニングへの助言や支援など</li> </ul> </li> <li>●リハビリ専門職として市の事業への協力、出張、地域での講座等啓発活動等行っていく準備はできているが、リハビリ専門職は病院や介護施設等に所属し業務を行っているため、協力に向けて在籍している病院、施設等の管理者への周知を市より図って欲しい。</li> </ul>
	<p>◆ふなばしシルバーリハビリ体操（地域包括ケア推進課）</p> <p>市民のリハビリテーションの自助・互助力を高めるため、ふなばしシルバーリハビリ体操の効果をもっと市民に周知し参加者を増やす必要がある。</p>	—	
	<p>◆フレイル対策（船橋市医師会）</p> <p>コロナ禍において、一般的な活動性の低下に加え高齢者においては、外出を控え不活発な状況が進んでいます。フレイルについての対策について、再度の評価と検討が必要だと思います。</p>	<p>◆フレイル対策（船橋市医師会）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活がフレイルを防ぐ視野をいれた街づくりも検討してはいかがでしょうか。</li> </ul>	
	<p>◆地域ケア会議（千葉県理学療法士会）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議の構成員として、一部の地区では理学療法士等リハ職が参加しているが、ほとんどの地区で参加していない。</li> </ul>	<p>◆ひまわりネットワーク（千葉県理学療法士会）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひまわりネットワークのHPにおいて、参加団体の窓口となる担当者名が分かると、連絡を取りやすくなり、連携を深める一助になるのではないかと。</li> </ul> <p>◆行政の施策（千葉県理学療法士会）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市が現在おこなっている事業や研修等を継続的に行い、効果や結果の検証までしていただければ自ずと発展していくと考える。</li> <li>・ふなばしシルバーリハビリ体操について指導員の養成が進んでおりロコモティブシンドロームの予防は進んでいる印象であるが、生活習慣病に特化した運動機会や体操教室、講座などは少ないと思われる為、それらを増やすことが重要と思われる。</li> <li>・講座や体操指導だけではなく、気軽に学べる動画を作成したり、ふなばし健康ポイントの付与と関連付けることでより普及することができるかと考える。</li> </ul>	

課題項目	①船橋市における地域リハビリテーションの課題	②今後船橋市において必要な取り組み	③各団体が協力できること
(2) 市民等への 啓発	<p>◆市民の理解（地域包括ケア推進課） ・船橋市（行政）やリハビリテーション病棟、リハビリテーション事業を実施する施設・事業所で行われているリハビリテーション活動について、市民はどの程度理解しているか？ ・いまだに「リハビリテーション活動＝機能訓練」とのイメージされることが多く、「地域リハビリテーション」のマインドや活動内容等の理解が不十分である。</p> <p>◆地域リハビリテーションの認識（地域包括ケア推進課） ・医療職であっても認識の差異がみられ、ケアマネジャー等介護職においても様々な状況があると感じられる。市民もリハビリテーションの受け止め方が正確でない印象があり、認識の違いを埋めていく必要がある。</p>	<p>◆地域リハビリテーションの普及啓発（地域包括ケア推進課） 地域リハビリテーションに参画する事業者の活動内容の調査を行うとともに、実践例を集めて分かりやすく多様なメディアを用いた市民への紹介を行う。</p> <p>◆周知の場（地域包括ケア推進課） 医療機関や介護、福祉事業者の管理者等に対し、船橋市の目指す地域リハビリテーションに向けた取り組み等について周知する場を設けてはどうか。</p>	<p>（健康づくり課） ●リハビリテーション専門職等の活用（当課事業に参画している個人、事業所の共有）  ●介護予防事業全般に関する情報の共有</p> <p>（地域包括ケア推進課） ●船橋在宅医療ひまわりネットワークでは、コロナ禍以前に実践発表会と題した学術集会を開催したが、この活動を通して実践例を発表できる環境を提供できる。 しかし、この発表会のみでは数に限りがあるため、その他の周知方法も用意する必要があると考えている。</p>
	<p>◆口腔ケアの普及（船橋市医師会） ・誤嚥性肺炎が増えており、口腔ケアについて普及</p>	<p>◆地域と専門職をつなぐ場の設定（船橋市医師会） 自治会や町会等地域の身近な場所で、人との交流や相談場所となり、地域と専門職をつなぐ場の設定。</p>	<p>（船橋歯科医師会） ●歯、口腔の健康維持が、全身の健康のためにとっても大事である事と、そのために定期健診、メンテナンスが大事であることを、講演会、勉強会、広報誌、ホームページなどで周知を続ける。</p>
	<p>◆講演会（船橋歯科医師会） 歯科に関する講演会や相談会が実施できなくて、市民やリハビリテーションに関わる人たちへの知識の普及が少ない時期ができてしまった。</p>	-	<p>（船橋薬剤師会） ●薬局には高齢者や障害者とその家族のご利用も多いので、3年間のコロナ禍での閉じこもりがちだった高齢者や障害者に足腰の衰えやロコモティブシンドロームについて啓蒙していきたいと思えます。また、イベントやチラシの配布等も協力していきたいと思えます。</p>
	<p>◆地域住民への認知不足（船橋市介護老人保健施設協会） 地域住民に向けた交流や活動など介護予防事業への参加も進んできているが、地域住民への認知不足</p>	<p>◆地域住民への認知不足（船橋市介護老人保健施設協会） 地域交流ができる機会の確保や提供</p>	<p>（船橋市介護老人保健施設協会） ●地域住民に向けた場や機会を提供して、理解や認知を促進していく。</p>
	<p>◆市民への周知（船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会） 生活リハビリの概念について市民への浸透が不十分。（どんな場合においても病院でのリハビリが一番だと思っている市民も多いのではないか。）</p>	<p>◆市民への周知（船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会） 市民への啓発（情報提供）</p>	<p>（千葉県理学療法士会） ●自治会や町会、駅前の商業施設等、地域の身近な場所での講演会や交流会に参加する。また、地域からの定期的な講師派遣の仕組みがあれば協力できる。</p>
	<p>◆理学療法士への理解（千葉県理学療法士会） ・地域に対して、理学療法士は何かできる専門家なのかを十分に伝えられていない。 ・健康増進や介護予防の地域での取り組みにおいて、地域住民等に理学療法士の専門性の理解が不十分で活用されていないと感じる。</p> <p>◆主体性を引き出す場づくり（千葉県理学療法士会） ・自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるために、利用者の主体性を引き出すための場作りが急務ではないかと考えています。 ・主体性を引き出し、社会参加を促すためには、デイサービス等介護施設だけではなく、一般の元気な方も一緒に参加できる場づくりと、その情報を発信し共有できる手段があると良いと考えます。</p> <p>◆介護資源に関する周知（千葉県理学療法士会） ・世帯数は増加傾向にあるものの、1世帯2.11人と夫婦二人などの世帯も多いと考えられる。今後高齢化が進んで行く中で老々介護のような家庭が増えていくことも予想されるが、どのような介護資源があるのか、介助方法があるのかを知る機会が少ない印象がある。</p> <p>◆医療従事者への周知（千葉県理学療法士会） ・船橋市に在籍する医療介護従事者への周知について、十分情報が届くよう今以上に工夫する必要があるのではないかと。ひまわりイベント等に参加している者は参加者数からしてまだ一部である。</p>	<p>◆理学療法士への理解（千葉県理学療法士会） ・病院や施設に属する以外に理学療法士が地域に対してできることに関して情報共有や発信を行う。</p> <p>◆主体性を引き出す場づくり（千葉県理学療法士会） ・専門職を活用して地域住民への普及・啓発と共に、健康づくりのための場等の構築の併存 ・高齢であっても人とのつながりの場を増やし、培った能力を発揮できる機会を増やす。 ・働き世代を対象とした腰痛予防の呼びかけや体操の指導。 ・疾患的には腎不全や心不全など生活習慣病を抱える住民も多いため、地域でそれらをテーマにした地域の専門職を活用した講習会の開催。</p> <p>◆介護資源に関する周知（千葉県理学療法士会） ・介護資源などをよりわかりやすく伝える市民講座などの頻度を増やすことや、それらの広報に力を入れることが重要、また簡単に行える介助指導など自助的に行えるようサポートする取り組みなども必要。</p>	<p>●インフォーマルの地域資源を活用した介護予防の知識やスキル等を地域住民の通いの場で紹介する。</p> <p>（健康政策課） ●口腔保健支援事業や地域リハビリテーション拠点事業において、市民への周知を促進する。</p> <p>●健康ポイント事業においては、様々な健康づくりを応援するネットワーク事業として、健康寿命の延伸を目標に、健康に関心のある人だけでなく、健康に無関心な人や運動習慣のない人の健康づくりに取り組む動機づけとなるよう、事業を継続していく。</p>
<p>◆市民への周知（健康政策課） 現在健康な人も、将来的に年をとることによる身体機能や口腔機能等の低下を自分自身の問題としてとらえられるようになることで、専門職だけでなく地域住民も含めた支援体制が作られるよう、市民全体に向けて啓発していくことが必要である。</p>	<p>◆市民への周知（健康政策課） 現在地域リハビリテーション拠点事業やひまわりネットワーク、市で行っている講演会や研修会、事業を、特定の専門職・市民だけではなく、より多くの人に知ってもらうために、市民に対する出前講座や講演会、市職員、各関係団体の内部での周知を強化する。</p>		

課題項目	①船橋市における地域リハビリテーションの課題	②今後船橋市において必要な取り組み	③各団体が協力できること
(3) 医療・ 介護の現場	<p>◆急性期病院、退院後のリハビリの現状（船橋市医師会） 入院や疾病の発症によりADLが低下します。できるだけ早期からのリハビリ介入が指摘されていますが、急性期病院でのリハビリの現状、退院後の早期のリハビリの介入など船橋市内での現状はいかがでしょうか。</p>	—	<p>（船橋歯科医師会） ●一般の歯科医院では治療が難しい要介護高齢者や障害児者の治療を行っている、さざんか特殊歯科診療所とかざぐるま特殊歯科診療所について、市民に広め活用をしていただく。</p>
	<p>◆地域リハビリテーションの機能低下（船橋歯科医師会） 今回の新型コロナウイルス感染症によるパンデミックでは、感染拡大を抑えるために医療介護福祉、地域リハビリテーションの機能が低下してしまった。</p>	<p>◆感染防止対策（船橋歯科医師会） 現在の新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ、次の感染症のパンデミックに備え感染予防対策のさらなる研究と、次世代のためにマニュアルをつくりたい。</p> <p>◆施設における口腔内のチェック（船橋歯科医師会） 歯の欠損、義歯の不具合、口腔乾燥、摂食嚥下障害などにより栄養状態不良におちいり、リハビリテーションが上手く進まない困るので、どのような施設においても歯科医師、歯科衛生士が口腔内のチェックを行えるようにしていきたい。</p>	<p>（船橋市介護老人保健施設協会） ●継続的なリハビリの提供</p> <p>（船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会） ●在宅担当と現場での課題を共有して、その人の人生を支援できる包括システムづくりの一端を担う</p> <p>（船橋市リハビリセンター） ●ひまわりネットワーク地域リハ推進委員会を活用し、療育支援課への協力の在り方を検討することができると思います。</p>
	<p>◆コロナによるカンファレンス等の制限（船橋市介護支援専門員協議会） 新型コロナ感染拡大により医療機関、高齢者施設等は感染対策として面会制限や入退院時、入退所の制限が長期にわたり継続している。面会、カンファレンスの開催等が困難となった。</p> <p>◆歯科との連携（船橋市介護支援専門員協議会） 歯科健診が義務化された。歯科との連携と知識の向上が課題。</p>	<p>◆退院支援（船橋市介護支援専門員協議会） 退院支援においては、退院時カンファレンスや専門職との家屋調査など今後はこのような経験を生かしBCP策定として地域で共有していく必要がある。</p> <p>◆歯科との連携（船橋市介護支援専門員協議会） オーラルフレールは高齢者にとって、口腔内の健康が全身の健康に影響することが知られている。そのような概念を取り入れた歯科医、歯科衛生士との連携。</p>	
	<p>◆利用者ニーズへの対応（船橋市介護老人保健施設協会） 専門職からの視点での評価と利用者のニーズとの擦り合わせについてと、事業所毎の住み分けの必要性</p>	—	
	<p>◆地域に対する取り組み（船橋市老人福祉施設協議会） 社会福祉法人は、地域における公益的な取り組みが責務化されているところであるが、新型コロナウイルスの影響により、地域に対する取り組みが十分になされていない法人、施設が多くあることが課題である。</p>	<p>◆地域に対する取り組み（船橋市老人福祉施設協議会） 令和5年度に、新型コロナウイルスの取り扱いが見直されることとなっており、世の中の動向を中止しながら、地域に対する取り組みを進めていきたい。</p>	
	<p>◆慢性期病院での入院リハビリ（船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会） 船橋市内の慢性期病院に入院リハビリの提供がなく、リハビリの希望がある場合には他市の慢性期病院へ転院相談をしている状況。</p> <p>◆若年者へのリハビリテーション（船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会） 若年者(65歳未満)に対するリハビリテーション資源の乏しさ。</p> <p>◆介護と医療（船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会） 在宅介護の現場と医療リハビリとの認識のギャップ。</p>	<p>◆慢性期病院での入院リハビリ（船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会） ニーズに対応する資源の充足（要望）</p> <p>◆若年者へのリハビリテーション（船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会） 疾患別の取り組みの紹介など知恵の共有</p> <p>◆介護と医療（船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会） 専門職同士(多職種)で現状や課題を共有する場づくり</p>	
	<p>◆障害児者への支援（船橋市リハビリセンター） 障害児者支援に携わる者が少ない、また、ネットワークが築けていない。</p>	<p>◆障害児者への支援（船橋市リハビリセンター） 障害児者支援に関わる方々の学びの場の提供、ネットワークが構築できるような場の提供。</p>	
	<p>◆リハビリテーションの目的（千葉県理学療法士会） ・リハビリテーションサービスにおいて利用目的や提供内容が機能訓練に偏る傾向があり課題だと考えます。</p>	—	
	<p>◆難病患者や障害者への取組（船橋薬剤師会） 薬局には高齢者の患者さんやお客さんが多く、地域包括ケアシステムや地域リハビリテーションを高齢者中心に取り組んでいた気がします。難病患者や障害者にも取り組んでいきたい。</p>	<p>◆市事業の活用（船橋薬剤師会） 足腰の衰えチェックやふなばしシルバーリハビリ体操などを積極的に活用してほしい。</p>	

課題項目	①船橋市における地域リハビリテーションの課題	②今後船橋市において必要な取り組み	③各団体が協力できること
(4) 障害児・者 難病患者等 への取組	◆小児・障害者への対策（船橋市医師会） 小児・障害者への対策	—	
	◆障害福祉分野への地域リハ推進（作業療法士会） 高齢者の地域リハビリテーションに比較し障害福祉における地域リハビリテーションの推進が不十分ではないかと感じております。障害福祉で働く当団体の会員も医療、介護分野に比較し少なく情報が不十分であると思えます。地域で暮らす介護保険対象外の障害をもった成人、小児をどのように支援していくかの理解が課題の一つであると思えます。	—	
	◆小児領域への取組（船橋市立リハビリテーション病院） 小児領域に対する取り組みが不十分であり、また、成人領域との連携が十分にできていない。	◆小児領域への取組（船橋市立リハビリテーション病院） 連携しネットワークが構築できるような場の提供。	
	◆難病患者に対するフォロー（千葉県理学療法士会） ・神経難病等の患者を地域でフォローするかかりつけ医の資源が少ない。	—	
(5) 他職種・ 他事業所 との連携	◆若手職員の研修参加（作業療法士会） ここ数年間のコロナ禍の影響により他職種、他事業所の方々と関わる機会が減少しています。このような状況の中、研修や講演会はzoom等オンラインで実施できているのはいいことだとは思いますが、若い職員の働き方の変化に伴い若い職員の研修会への参加が少ないように思います。	◆職種の世代間交流（作業療法士会） 他職種連携はもちろん重要であると思いますがそれと並行して同職種の世代間交流も重要であると思えます。しかし、委員会も有志の集まりであります。地域のために行っていることでもあり何かしら助成があると物品や講師依頼等に費用をかけられると思えます。	<p>（船橋市医師会）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●船橋在宅医療ひまわりネットワークへの参加や研修会、勉強会等への協力</li> </ul> <p>（千葉県作業療法士会）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●勉強会、講演会、交流会等への作業療法士会員の参加</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●千葉県作業療法士会主催の研修会、講演会へ他職種も参加してもらう。</li> <li>●勉強会や研修会の案内を県士会員へ案内・周知する。</li> </ul> <p>（船橋市介護支援専門員協議会）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●研修会や事例検討会への積極的な参加するよう会員へ周知、協力していきます。</li> </ul> <p>（船橋市老人福祉施設協議会）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●各種勉強会・研修会の開催情報の告知協力。各種勉強会・研修会の会場や物品の提供、貸与。講師派遣などの協力。</li> </ul> <p>（千葉県理学療法士会）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●病院、介護事業所等の専門職等を対象に事例検討会など勉強会の開催及び自立支援スキルの共有や多職種連携のあり方の検討。</li> </ul>
	◆施設間の連携強化（船橋市介護老人保健施設協会） 市内での施設間でのネットワークによる情報共有や連携の強化	◆施設間の連携強化（船橋市介護老人保健施設協会） 各事業所での地域毎の連携を更に強化していく。	
	—	<p>◆医療・介護との連携（千葉県理学療法士会） ・病院、介護施設への情報提供を推進し、退院時にも社会参加が検討できるつながりの推進</p> <p>◆行政と専門職等とのつながり（千葉県理学療法士会） ・体力測定・運動・口腔・栄養に関しては、回復期病院は強い専門性が提供できる場であるため出張講座や家族の悩み相談会等の開催を行うべく、行政、地域包括支援センター等地域の支援者と専門職がつながりを推進する。</p>	
(6) 人材不足	◆リハスタッフの不足（作業療法士会） 高齢者の地域リハビリテーションに携わる作業療法士もまだ不足していると思えますが言語聴覚士はさらに不足しているのではないかと思います。	◆リハスタッフの不足（作業療法士会） 地域で働くリハスタッフ不足はまだ否めない気がしますので船橋市地域リハビリテーション協議会主体にて就職説明会などはいかがでしょうか。	<p>（船橋市リハビリセンター）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●豊富高校との連携の在り方について、一緒に検討できると良いと思えます。また、高校生と接する機会が持てるのであれば、講師派遣等行うことができると思えます。</li> </ul>
	◆リハスタッフの不足（船橋市立リハビリテーション病院） 市内（圏域内）に回復期リハビリテーション病床が増加した結果、看護・介護およびリハスタッフの確保が困難になってきている。紹介会社経由での採用に頼らざるを得ず、高額な紹介手数料が発生している。	◆リハスタッフの不足（船橋市立リハビリテーション病院） 船橋市看護師等養成修学資金貸付制度、潜在看護師の復職支援など、船橋市内の看護師等不足解消に向けた活動・取組みのさらなる促進	
	◆人材不足（船橋市リハビリセンター） 看護・介護・リハ分野の人材不足（ドライバー含む）	◆人材不足（船橋市リハビリセンター） 県立高校改革において、豊富高校に福祉コースが設置され、外部機関との連携を推進するコンソーシアムを設置すること。教員の中にも「福祉=介護」という狭い理解の方も多く、船橋で育つ人材に、船橋の魅力を感じてもらおうべく、連携を図ってはどうか。	

課題項目	①船橋市における地域リハビリテーションの課題	②今後船橋市において必要な取り組み	③各団体が協力できること
<p>(7) 地域リハビリテーションの推進</p>	<p>◆リハビリテーションの効果の提示（地域包括ケア推進課）            コロナ禍が明ける令和5年度にどれだけリハビリテーションの具体的な効果を市民に提示できるかが課題と考えている。行政はその効果を市民に提示する義務があるし、各事業者からはその実践例を頂戴できないか？</p>	<p>◆活動指針の策定（地域包括ケア推進課）            船橋市として、船橋市地域福祉計画に地域リハビリテーション活動指針等を位置付けることを提案したい。当協議会において、船橋市の目指す地域リハビリテーション体制（活動指針）を策定してはどうか。</p>	<p>（地域包括ケア推進課）            ●船橋在宅医療ひまわりネットワーク地域リハ推進委員会では、地域リハビリテーションに関する課題や対策を検討することができる。</p> <p>（船橋市リハビリセンター）            ●ひまわりネットワーク地域リハ推進委員会を活用し、地域包括ケア推進課と協力し、他市の推進状況との比較検討するなど、見える化に努めます。</p>
	<p>◆地域包括ケアの推進（船橋市リハビリセンター）            地域包括ケア推進がどこまで進んでいるか、分からない（関係者でも共通認識が持っていない）</p>	<p>◆地域包括ケアの推進（船橋市リハビリセンター）            地域包括ケア進捗状況の見える化。</p>	
	<p>◆地域リハの実施状況・課題の把握（千葉県理学療法士会）            ・行政と職能団体における、それぞれの地域リハビリテーションの考えや実施状況が見えにくいと感じる。            ・船橋市にさらに必要な地域リハビリテーションの浸透に向けた課題を整理することが必要と感じる。            ・疾患としては高血圧や糖尿病、透析患者、メタボリックシンドロームなど生活習慣病と呼ばれる状態である方は減少傾向にない。</p> <p>◆地区特性ごとの対応（千葉県理学療法士会）            ・市内においても各地域が抱える地区特性や課題は一律ではないため、介護予防活動などそれぞれの特性に応じて対応しなければならないが、その情報を取りにくいし、分かりづらい。</p> <p>◆子育て世代への対応（千葉県理学療法士会）            ・ふなばし健やかプラン21より、船橋市の特徴としては高齢化が進んでいるも、依然として働き盛りや子育て世帯の割合が多いことが特徴にも関わらず、その世代を対象としたリハビリテーションの視点や資源は少ない印象である。</p>	<p>◆目標・事業計画の作成（千葉県理学療法士会）            ・地域リハビリテーションのビジョン達成に向けた、具体的な目標や事業計画を共同して作成し、関係者に見える化する。</p> <p>◆課題の共有（千葉県理学療法士会）            ・行政が課題と感じている事を共有し、リハビリテーション団体として貢献可能な部分に関しては取り組みを進めていく。</p>	